10 精神神経科
Neuropsychiatry

●教室（診療科）の特色●

伝統的な精神医学に立脚しながら、地域の基幹総合病院精神科の役割を担い続けています。患者の立場に立った医療を全てのスタッフと共に作り上げ、決してmindless psychiatryとならないように、また生物学的基盤を探求する立場も忘れない、すなわちbrainless psychiatryにもならないように学術的探求にも力を入れています。

金沢 徹文（かなざわ てつふみ）**教授（科長）**

■専門分野
臨床精神医学、精神科遺伝学

■主な学会／専門医資格
精神保健指定医
日本精神神経学会／専門医・指導医
日本総合病院医学会／特定指導医
精神保健判定医

■研究課題
臨床精神医学、生物学的精神医学

●教室（診療科）の概要・特徴●

伝統的な精神医学を背景に新しい技術を積極的に取り入れていく進歩的な教室運営を続けています。近年は多くの入局者に加えてスタッフも若返りが著しく活気溢れる教室になっています。

大阪医科薬科大学病院精神神経科は地域の基幹総合病院精神科としてうつ病や統合失調症、認知症から発達障害など幅広い疾患を治療対象としています。特に画像診断や心理検査に強みを持ち、検査入院も積極的に受け入れを続けています。また、カウンセリングなどの心理療法や、ECT、rTMS、クロザピンなどの特殊治療も幅広く展開しています。さらに、遺伝子を通じた精神疾患の病態解明を進めており、脳機能を用いた研究分野も活発に行っています。

精神科における診療は今後の社会の中で大きな役割を担う必要があることから、幅広い分野を通じて社会に貢献していける教室でありたいと考えています。

●教室（診療科）指導医・上級医●

氏 名（職 掌）	専 門 医	研究課題等
木下真也（講　師）	精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医、一般病院連携精神医学専門医・指導医	リエゾン精神医学、性別違和
久保洋一郎（講師（准））	精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学専門医	児童精神医学、老年精神医学
今津伸一（助　教）	精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学専門医	老年精神医学、臨床精神医学
豐田勝孝（助　教）	精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医、一般病院連携精神医学専門医・指導医 日本老年精神医学専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医 日本臨床精神神経薬理学会専門医	老年精神医学、臨床精神医学
他 助教（准）7名		

■連　絡　先：大阪医科薬科大学神経精神医学教室　TEL：072-683-1221
■ホームページ：https://www.ompu.ac.jp/u-deps/psychiatry/

初期臨床研修プログラムの特徴

研修医の目的に合わせて、研修は2ヶ月コース、6ヶ月コース、9ヶ月コースの3種類。

・2ヶ月コースでは臨床医として必要な基本的な精神医学的知識、技能の習得を目的とします。

・6ヶ月、9ヶ月コースにおいては、基本的な知識の習得に加えて、①精神科特有の疾患・代表的な疾患の診断や治療、②総合病院精神神経科としての特徴である身体合併症を有する疾患への対応やコンサルテーション・リエゾン活動、③専門外来での研修、などの経験を通じて幅広い精神医学的知識、技能の習得を目的とします。

研修内容と到達目標

＜9か月コース＞

- 精神症状のとらえ方の基本を身につける。
- 精神疾患に対する初期対応と治療の実際を学ぶ。
- 身体疾患に合併して生じる精神疾患・症状の診断や治療の実際を経験する。
- デイケアなどを通じた社会復帰や地域支援体制を理解する。

研修を通じて、到達目標に見る代表的な精神・神経系疾患（7項目）の研修を重ねる。外来では予診の取り方、初診担当医のもとで面接法、診察手順、検査、投薬などを学ぶ。病棟では主治医として症例を担当し、精神療法的アプローチや薬物療法を経験する。入院、退院に際しては、精神科独特の法律の規定とその運用、遵守などについても学ぶ。総合病院の特性としての他科との連携や、身体合併症を抱えた症例への対応、コンサルテーション・リエゾン、緩和ケアチームへの参加も求められる。

また地域医療研修として、1ヶ月の関連病院での研修が含まれる。大学病院のような総合病院とは異なった、地域医療の実際を経験する。

当科は多数の専門外来を備えており、各研修医の希望に応じて専門的知識の習得にも対応する。さらに本コースを希望する者には、各研究グループが主催する勉強会や輪読会への積極的な参加を求める。

これらの研修により、将来臨床医として求められる基本的な精神科的知識の習得に加え、主治医として入院患者の診察、検査、診断、治療に積極的に取り組むことにより、幅広い精神医学的知識・技能の習得を目標とする。

＜6か月コース＞

本コースの内容、目的は、9ヶ月コースと同様である。関連病院での1ヶ月間の地域医療研修も含まれる。

＜2か月コース＞

このコースは、研修の内容を外来業務に置き、一般外来診察に加えて、コンサルテーション・リエゾン活動にも参加を求める。研修医の希望に応じて、専門外来での研修も可能である。これらの研修を通じて、将来臨床医として求められる基本的な精神科的知識、技能の習得を目的とする。

研修病院群

大阪医科薬科大学病院
新阿武山病院
新淡路病院

評価方法

実際に担当した患者はすべて実績表に記載し、指導医の検閲を受ける。また研修期間終了時には、評価表と別に定めるチェックリストを科長に提出する。

週間スケジュール

月曜日	病棟回診 入院カンファレンス、演習
火曜日	外来診察 病棟にて患者診察
水曜日	外来診察 病棟にて患者診察
木曜日	外来診察 病棟にて患者診察
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	外来診察 病棟にて患者診察

専門研修プログラム

専門研修プログラムの特徴

大阪医科薬科大学病院精神神経科は臨床的知見に立脚した科学的診療態度を特色とし、さまざまなライフステージに応じたきめ細かい臨床を特徴とする教室であります。大阪府のみならず近畿圏や全国で活躍する臨床家の輩出のみならず、研究面でも多くの成果を残してきている歴史があります。精神疾患は、医学だけで語ることができる学問領域でなく、心理学、社会学、哲学など様々な次元の先端的な知識が必要とされています。研究の分野で見れば、発展の著しい分子遺伝学、薬理学、脳科学を味方にしながら、新しい知見がますます増えています。時代にあった診療・研究に対する科学的姿勢を核に据えながら、積み重ねられた知見と共に患者さんと向き合うことができる診療医を、これからも輩出していくことができるプログラムとなっています。

基幹施設

基幹病院となる大阪医科薬科大学病院精神神経科は講座開設以来60年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残しています。

大学病院精神科として31床のベッド数を有し、閉鎖病棟・隔離室・観察室も十分なスペースを確保しており、難治例や身体合併症例などほとんどのケースに対応しています。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護・心理・リハビリテーションなどの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、クロザピン治療、rTMS治療などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っています。また、週1回行われる教授回診では指導医を中心としたグループディスカッションを行い、精神医学に関する広い知識を身につけていきます。さらに、認知症症例、思春期症例、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン、難治性精神疾患の特殊療法(m-ECT、クロザピン治療、rTMS治療)など、サブスペシャリティとして多様な選択肢が活発に活動しています。

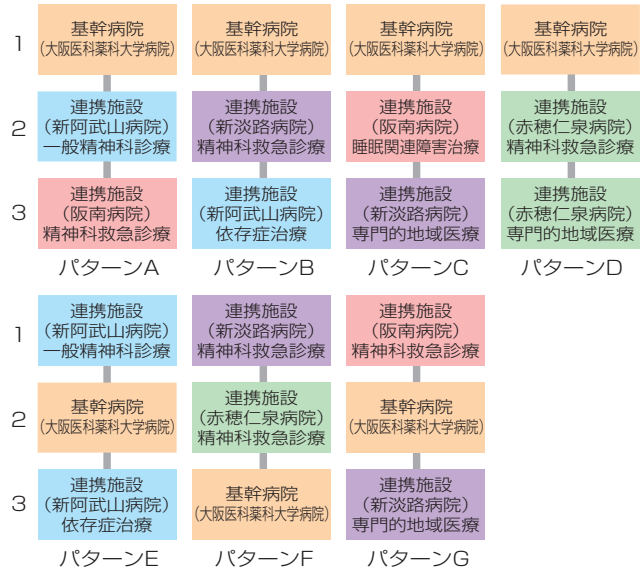
このように研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけ、最先端の情報に触れることが可能であります。また、地方会などへの定期的な発表や全国大会や国際学会への参加や発表を通じて研究・学会発表についても指導を受けることができます。

(2021年度診療実績)
外来:初診5.7人/日、再診75.1人/日、リエゾン依頼件数2696件/年
専門外来初診:認知症外来171人/年、児童思春期外来92人/年、ジェンダー外来24人/年など
入院:402人(F0;54人、F1;12人、F2;126人、F3;127人、F4;43人、F5;5人、F7;6人など)
電気けいれん療法:285件

専門研修施設群

研修基幹病院:大阪医科薬科大学病院(大阪府高槻市)
研修連携施設:新阿武山病院(大阪府高槻市)、阪南病院(大阪府堺市)、瀬田川病院(滋賀県大津市)、丹比荘病院(大阪府羽曳野市)、藍野花園病院(大阪府茨木市)、小曽根病院(大阪府豊中市)、新生会病院(大阪府和泉市)、ねや川サナトリウム(大阪府寝屋川市)、新淡路病院(兵庫県洲本市)、赤穂仁泉病院(兵庫県赤穂市)、藍野病院(大阪府茨木市)、稲田クリニック(大阪府高槻市)、水間病院(大阪府貝塚市)、金岡中央病院(大阪府堺市)、福岡大学病院(福岡県福岡市)

専門研修ローテーションのパターン例



研修ローテーションの事例

本プログラムには都市部の病院のみならず人口減少地域の病院も存在している。また、専門性の高い治療法を学ぶことも可能である。このため地域性や専門性に縛られない柔軟なローテーション選択が可能である。希望によっては二年間同じ病院に勤務することも可能である。

専門研修プログラムの到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得します。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ばなければなりません。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。
(専門研修プログラムの詳細は、次のホームページを参照ください)
URL:https://hospital.ompu.ac.jp/career_support/specialist/program_04.html

先輩レジデントのコメント

伊達 京香　令和4年度

自身に合ったキャリアプランを選択できる

大阪医科薬科大学精神神経科レジデントの伊達京香と申します。大阪医科薬科大学卒業後、研修医も同校のプログラムを2年間経た後の入局となりました。私の父親は内科の小さなクリニックを開業しており、私も小さいころから漠然と「医者になりたいな」と考えて過ごしていました。大学在学中は、内科を志望しておりましたが、私の代の研修医から必修で精神科の研修が始まったこともあり、ローテートする運びとなりました。その際に、内科的・外科的アプローチだけでなく、言葉だけでも患者様を癒すことができること、若い患者様も多く、一緒に長く将来について試行錯誤ができることなどに魅力を感じ、精神科を志望するようになりました。当時いただいた患者様からの手紙は私の宝物になっています。

1年間、大学附属病院でレジデントして勤務しましたが、初めの数カ月は慣れているはずのカルテですら上手く書けず、またカンファレンスの発表でも、調べられなかったこと、知らないことに対しての指摘を受け、悔しい思いをしたことを思い出します。しかし上級医の先生方が皆さん優しく指導して下さり、ストレスなく勤務することができました。

また医局員の希望や興味に合わせ、思春期、認知症、ジェンダーなど様々な専門性の高いグループで更に知識を身につけることができるという所も当院の魅力だと感じました。私は思春期グループに入らせて頂き、医師と心理師さんで行っている月1回の勉強会や、学会に参加したりと、貴重な経験をさせて頂きました。

もし精神科に興味のある方がいらっしゃればぜひ一度見学にいらして頂ければ幸いです。

川上 明紗美 令和4年度

学びの多い1年

はじめまして。私は大阪医科薬科大学を卒業後同病院で初期研修を行い、同病院の精神神経科に入局しました。高校時代から医学部に入るために理系の勉強をしていたものの、元々は文系の科目に興味がありました。そういった背景から人間を身体的な視点というより精神的な部分に焦点を当てた診療科であるという点に心惹かれて、精神科を自分の専門として選択しました。また出身地である滋賀県には高槻からは比較的帰りやすく、母校には他科にも友人が多くいたため、同病院に入局を決めました。

入局してからの1年間はカンファレンスや実際の診察を通して様々な勉強をさせていただきました。業務内容としては外来や電気けいれん療法の補助やリエゾンなどもありましたが、この1年は入院患者さんの対応がメインとなりました。患者さんによって入院に至った経緯は様々ですが、薬剤や環境調整で良くなる人もいれば、治療に難渋するケースもありました。うまくいったケースも難渋したケースも上級医に相談した上で治療にあたり、色々なケースを想定して治療を続けたため、非常に勉強になりました。精神科に興味がある方は是非見学にお越しください。

取得できる認定医・専門医

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本総合病院精神医学会認定専門医、日本老年精神医学会専門医、日本臨床精神神経薬理学会専門医、日本認知症学会専門医 などその他多数

参加学会等

日本精神神経学会／日本生物学的精神医学会／日本総合病院精神医学会／日本臨床精神神経薬理学会／日本老年精神医学会／日本てんかん学会／日本緩和医療学会／GID（性同一性障害）学会　　その他多数

主な関連病院

新阿武山病院／新淡路病院／小曽根病院／藍野花園病院／藍野病院／赤穂仁泉病院／金岡中央病院／水間病院／川越病院／瀬田川病院／ねや川サナトリウム／丹比荘病院／新生会病院／青葉丘病院／阪南病院／香良病院 など

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

近年、精神医学は社会の変化を反映したいわゆるストレス関連疾患の他、従来からの中心的な課題である内因性精神病、老年期精神障害、認知症、睡眠障害、児童思春期疾患、性別違和への新しいアプローチも成果を収めつつある。遺伝子解析、脳画像解析を含め、様々な研究手法を用いて、精神疾患に対し包括的に病態を把握できるように実際の症例や研究を通して学ぶ。

現在の研究テーマとその概要並びに展望

❶遺伝研究／金沢徹文、今津伸一、豊田勝孝など

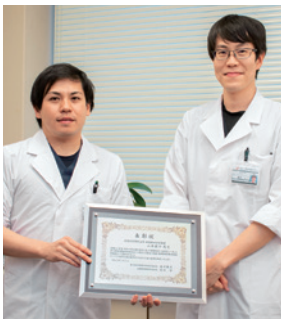
遺伝研究は家系研究、家族歴研究、双生児研究など臨床遺伝学的研究を教室開設以来継続して行っている。対象疾患は統合失調症、双極性障害、うつ病や教室の伝統である非定型精神病（急性一過性精神病）を中心として、最先端の遺伝子解析技法を駆使しながら病態の解明に迫ろうとしている。特に昨今は遺伝子解析技術の大幅な進歩が起こっており、MicroarrayやGWASをはじめ、Next Generation Sequencerを用いた解析など、当教室では様々な手法を取り入れて、精神疾患の解析に挑んでいる。今後も社会から求められる遺伝研究の成果を発表し続ける。

❷神経科学研究／木下真也、西澤由貴など

脳科学は多くの分野で爆発的な広がりを見せており、その恩恵を精神疾患に広げようとしている。当科が以前から行っている伝統的な臨床精神医学を科学的な言葉に置き換える装置の一つとして、光トポグラフィー装置の導入を行い、検査入院患者を通してその成果を発表し続けている。光トポグラフィー検査はこれまで客観的指標がなかったうつ病などの精神疾患において、可視化を進める医療機器である。また、当大学では患者さんに対してメンタルヘルス検査入院というものを行っている。それは、出来得る種々の検査を行うことで診断の助けとなるものである。取得した脳画像検査結果については心理検査などと併せて、他大学との共同研究を行っている。さらなる臨床応用を見据え、革新的なこの技術を洗練化することで次世代の精神科臨床の要望に応えようとしている。

❸薬理学的研究（クロザピン、ECT、rTMS）／木下真也、今津伸一、豊田勝孝など

当教室では治療抵抗性統合失調症に対してのクロザピン、同じく治療抵抗性統合失調症や治療抵抗性うつ病に対してのECT、治療抵抗性うつ病に対してのrTMSなど、治療抵抗性の精神疾患に対する様々な治療法を導入している。これらの治療法は、導入するにあたり特別な資格や施設基準を要求され、近隣の病院からの紹介数も多く、いわゆる大学病院ならではの治療法とも言えるだろう。そして今後の研究によって益々発展させていく必要があると考えられており、当教室では最先端の臨床的研究を行うことが可能である。クロザピンは日本全国のレジストリデータベースを用いた臨床的研究や薬理学的研究を行なっており、ECTやrTMSは当教室内だけで日本国内でも豊富な症例数を有しているので、症例から得たデータから2021年度も多数の論文作成を行うなど臨床的研究が盛んである。臨床的研究を通じて得た研究成果を、自身の臨床場面にも活かせるということはわれわれ精神科の臨床医にとっては何よりも幸せなことと感じている。



❹思春期疾患研究／久保洋一郎、藤本健士郎、坂口文、伊達京香など

自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動症、ARMSをはじめ精神科領域における思春期疾患は年々社会的に注目されている。当科ではこれらの疾患を中心に、医療的な介入を要する症例に対して多種類の心理検査を施行することで心理的特徴を明らかにし、多面的な関わりを行うことを目指している。また、疾患にとらわれず発達期の特性を計測し明らかにすることで、個々の症例の治療に寄与出来うる効果的な介入を目指している。

❺性別違和研究／木下真也など

性別違和ともされる方々は時代の変遷に伴い、社会における立ち位置が移り変わってきた。精神科領域で中心的に用いられている、DSM-5という診断基準においても診断名が「性同一性障害」から「性別違和」へと変わっている。これには「障害」という概念から外そうという動きが含まれる。「世界トランスジェンダー・ヘルス専門家協会」の作成した「The Standards of Care」による診断基準や治療基準も整備されつつあり、精神医学的に注目されている。その流れを受けて、当科の専門外来には多くの対象者が集まり、日々の臨床場面では治療に従事している。その生物学的特性を明らかにする中で、将来的なスティグマの解放を目指し研究を進めている。